

感染制御部で実施中の臨床研究についてのお知らせ

東京大学医学部附属病院感染制御部・感染症内科では、Medical data vision 社から購入したデータを使い、以下の研究をしております。

【研究課題】

ウイルス性肝炎および性感染症の有病率、罹患率、再活性化率、背景因子および予後に関する検討

(倫理委員会承認番号：2023143NI)

【研究機関名、研究責任者氏名】

この研究が行われる研究機関と研究責任者は次に示すとおりです。

研究機関 東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科

研究責任者 堤武也 感染制御部 教授

担当業務 データ解析

【共同研究機関】

東京大学医科学研究所 感染症分野

【研究期間】

2023 年倫理委員会承認日から 2028 年 3 月 31 日(延長の可能性あり)

【対象となる方】

2008年4月1日～2022年12月31日に、MDV社が保有している全国400以上の病院を受診した、4000万人以上の患者さんのうち、B型肝炎、C型肝炎、HIV、梅毒の確定病名、検査を行っている患者さん、約30万人が対象となります。

注) 上記データに東京大学医学部附属病院を受診した患者さんが含まれている可能性はございますが、患者情報、病院情報は匿名化されており、確認する方法はございません。

【研究の目的】

B型肝炎、C型肝炎、HIVおよび梅毒は、血液を介して感染を引き起こす感染症（血液媒介感染症）として共通点がありますが、以前に多く認められた汚染された血液製剤や注射針による感染および母子感染は感染症のスクリーニング法や感染伝播阻止手段の確立により近年では極めて稀となりました。しかしながら、依然として有病率は高く、また近年では性感染症としての側面も再認識されており、現代においても重要な感染症です。また、これらの感染症は一部のハイリスクな患者さんでは重複感染、複数感染が問題になることもあります。これらウイルス性肝炎および性感染症の、感染リスクの評価、有病率・罹患率、再活性化率の推定、およびその背景因子や合併症を含む予後を明らかとすることを目的としています。

【研究の意義】

本研究により、ウイルス性肝炎および性感染症の感染率等、背景因子および予後の解析を行うことにより、高リスク集団の特定および適切な検査・予防体制の構築、新規治療等の開発により、感染症流行の抑制および予後改善に繋がることが期待されます。

【研究の方法】

MDV社から購入した診療情報を用いて、B型肝炎、C型肝炎、HIV、梅毒の感染リスク

の評価、有病率・罹患率、再活性化率の推定およびその背景因子や合併症を含む予後について解析を行います。また、診療に用いた患者情報を用いるだけで、研究に伴い新たに患者さんに生じるご負担はございません。

【個人情報の保護】

すでに匿名化された情報を受け取り、解析いたします。個人の特定はできません。

【問い合わせ先】

東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科 教授 堤武也

住所:東京都文京区本郷 7-3-1 電話:03-3815-5411 内線 35335 FAX:03-5800-8796

E メールでのお問い合わせ: takeyatsutsumi@g.ecc.u-tokyo.ac.jp

医療機関名 東京大学医学部附属病院 感染制御部・感染症内科 診療科責任者名 堤武也